

# お母さんの手作り料理

ぼくは、お母さんにありがとうと言いたいです。生まれてからこれまで育ててくれたことに感謝するのは言うまでもありませんが、何よりも感謝しているのは、お母さんの「料理」を毎日食べられることです。お母さんが作る料理で特に大好きなのは、ハンバーグとカレーです。

お母さんの作るハンバーグは、一味ちがいます。たねには、あいびき肉を一五〇グラムも使います。たまねぎ、にんじん、グリーンピース、トウモロコシ、パン粉などを入れて、手でこねていきます。全体にねばりが出てきたら、温めておいれたホットプレートにのせます。フタをしてしばらくたったら、こんがり焼けているのを確かめて、うらがえして、フタをします。しばらくしてから、フタを開けると、フアツと湯気が上がり、焼いた肉のかおりが周りにたちこめます。チーズをのせて、少し焼いたら出来上がりです。出来立てをお皿にのせて、すぐにいただきます。ホットプレートで次から次へと焼いてくれるので、熱々のハンバーグをおなかいっぱい食べることができます。家で食べるハンバーグが、おいしいのは、しっかりと肉の味がするからです。お店で出てくるハンバーグは、形は整っているけれどソースの味がこくて、肉の味がごまかされていような気がします。お母さんのハンバーグには、肉の味を出す秘みつの工夫があるので、はないのかと思います。

次にカレーです。お母さんに「今日のごはんはカレーだよ。」と言われるといつもガッツポーズをしてしまいます。お母さんが作るカレーはトロトロしていて、大きな野菜やお肉がゴロゴロ入って、スパイスのいい香りがします。カレーが出来上がりに近づくと、いい香りが家中に広がって、まだかまだかとうきうきうしてきます。カレーを食べると辛すぎず、ちょうどいい辛さですが、少し辛いときは、目玉焼きやほしぶどうを多めにいれて食べます。

どうしてこんなにおいしいのか。それは、ぼくにちように辛い辛さを知っていて、ぼくに合わせて作ってくれていること。それと、あまり好きでない野菜も大好きなカレーの中に入っていると、甘く感じてとてもおいしいのです。

こんなお母さんの料理が、大好きなのです。おいしい料理を食べるとうれししいし、それを家族のみんなで食べるとさらにおいしく感じます。また、お父さん、お母さんと弟たちのおいしい笑顔を見ると心も温かくなります。毎日食べているごはんですが、ごはんには、不思議な力があると思います。お母さんが今日も台所で格とうしながらおいしい料理を作っているのを見ると、「ありがとう」という言葉が自然と心からうかんできます。

押部 孝祐